



腸肝相関を標的とした肝疾患治療法の開発

吉治 仁志

Hitoshi Yoshiji

消化器内科学／教授

臨床

■キーワード 腸内細菌、エンドトキシン、肝線維化、肝発癌、肝硬変

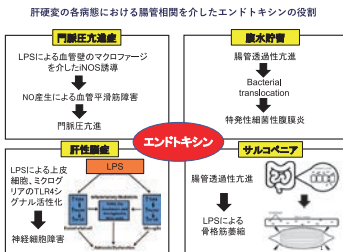
シーズ概要

Leaky gut の制御はあらゆる背景の肝硬変において病態進展に加え、各合併症の増悪予防にもつながり、予後改善が強く期待できるものの未だ臨床応用はされていない。

現在、腸内細菌叢の調整を目的として様々なプロバイオティクスなどの研究開発が行われている。しかし、腸内細菌叢は日本人でも地域によって大きな差があり、腸内細菌叢が幼少期にほぼ完成していることもあり単剤での治療を確立するには様々なハードルがあると考えられる。

加えて、EX は外注検査で測定可能なものは極めて感度が低いことも問題であるが、当科は EX の高感度測定法を有しており、信頼できる効果判定が可能である。

我々はこれまでに腸管の TJ を強化することで様々な肝疾患病態が改善することを報告してきた。PXR 活性化作用を含めて創薬の可能性は極めて高く、産学連携で新規治療に繋がる研究を進めたいと考えている。



研究成果の応用可能性

腸内細菌の関与するあらゆる病態に対する臨床応用ならびに適応拡大

EX を減少させる食品の研究と包括的なメタボリックシンドローム対策

Appeal Point

アピールポイント

肝疾患に留まらず、様々な疾患に対する新規治療法の新たな側面を切り開く研究となる可能性があります。

関連文献／特許

1. Rifaximin Alleviates Endotoxemia with Decreased Serum Levels of Soluble CD163 and Mannose Receptor and Partial Modification of Gut Microbiota in Cirrhotic Patients. Yoshiji H, Kaji K, et al; Antibiotics (Basel). 2020 Mar 29;9(4). pii: E145.